

育てよう

鏡野のよい子シリーズ



「身近な自然を教材に」

理科の教材作りと趣味を兼ね、昆虫を中心に鳥や野の花、自然の風景を撮り始めて二十年近くがたった。カメラのレンズを通して見続けていると、昆虫と植物の関係や季節、環境など、自然の変化が見えてくる。撮ってきた昆虫の写真を見せ、撮影時のエピソードの話をすると、子どもたちは目を輝かせて聞いてくれるが、本物の昆虫や植物等に触れて楽しく遊ぶ子どもは、農山村でも少ないのが現状ではないだろうか。

「食べ物が少ないのでイノシシが里へ下りてきて田畑を荒らす」、「猟師が減ったためイノシシやシカが増えている」、「昆虫の数が減っている」、「ちよつと前までどこでも目にできたメダカやタガメの数が減ってきている」といった環境の変化を、多くのメディアが伝えている。イノシシやシカの被害は目立っても、昆虫やメダカの数が減っている事は、目立たないため実感しにくい。

今はネット時代で、膨大な情報を簡単に得ることはできるが、昆虫が数を減らしているという小さな

出来事を、実際に見て実感している子どもは、いったいどれだけのいるだろう。絶滅危惧種の昆虫がいることや、イノシシやシカの被害については、教室の中でも学習することはできるが、家や学校の周りの昆虫や野の花のことを、子どもたちはどのくらい知っているのだろうか？ 遠くまで出かけなくても、身近な運動場の片隅で雑草が小さな花を咲かせ、昆虫や小動物が生きていて、自然がある。

自然は、教室の中の学習だけでは、分からないことばかりだ。校外へ出て、もつともつと身近な自然に触れさせる機会を持つていきたい。そして身近な自然に目を向け、昆虫や小動物、植物に興味を持つ子どもたちを増やしていきたい。

昆虫の写真を見せ、撮影時のエピソードを聞かせることが、子どもたちの自然への興味に繋がっていると信じて、これからもカメラを持って野山を歩き続けたい。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

香北小学校 内田 慎吾

のびのびひろば

まっかないいちご あま〜いね(*^o^*)

郷幼稚園



小さな手に100円玉を握り、町営バスに乗っていちご狩りに行きました。「おねがいしま〜す」と大きな声であいさつをして、バスに乗り込みます。地域の方は突然乗ってきた子どもたちにびっくり！



いちごハウスに到着すると、すぐにあま〜いかおりが・・・。
大きないちご・真っ赤ないちご・・・大喜びでほおばりました。



どれを食べようかな〜



あまくて
おいしい〜

